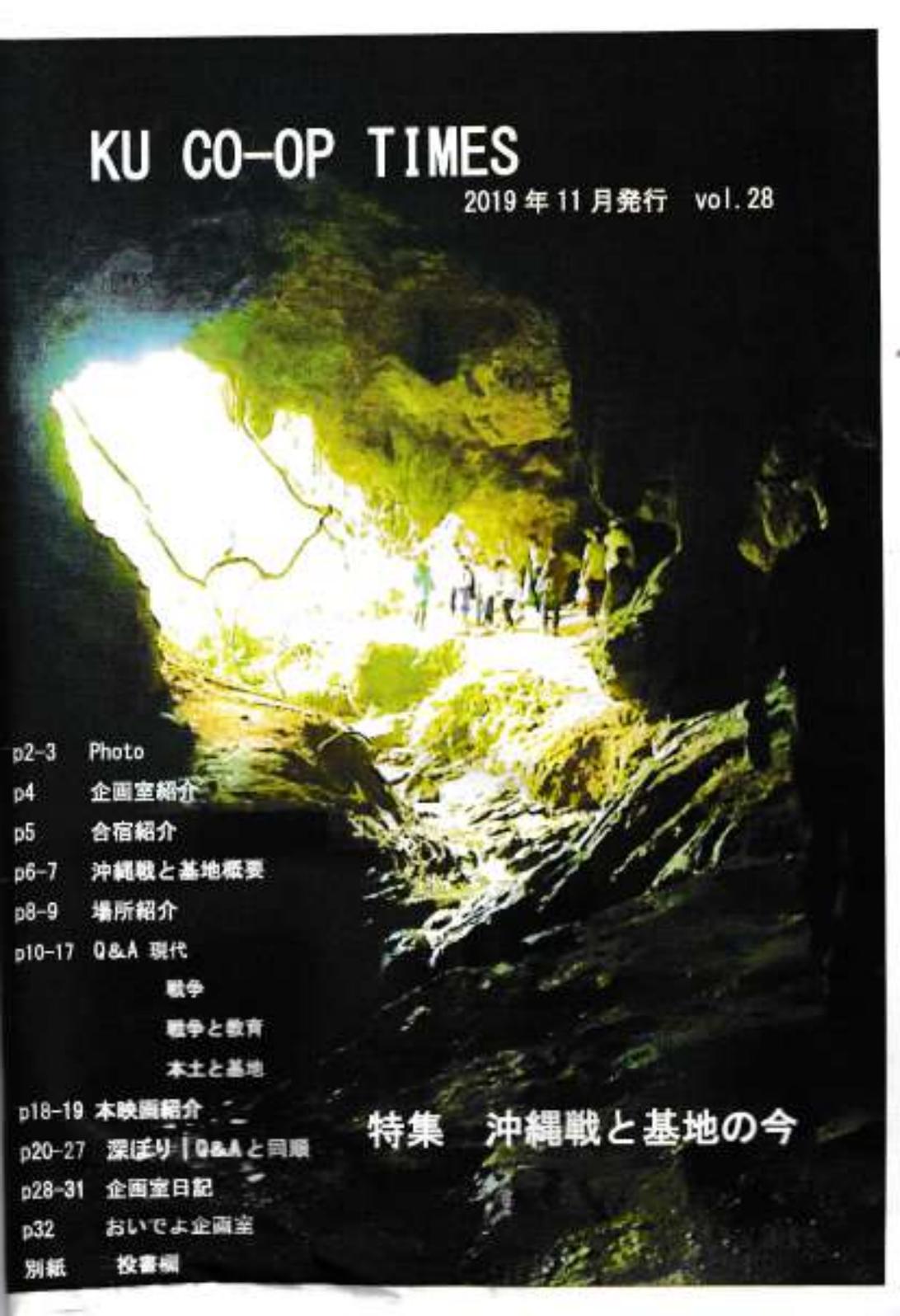


KU CO-OP TIMES

2019年11月発行 vol.28

- 
- p2-3 Photo
p4 企画室紹介
p5 合宿紹介
p6-7 沖縄戦と基地概要
p8-9 場所紹介
p10-17 Q&A 現代

戦争

戦争と教育

本土と基地

- p18-19 本映画紹介
p20-27 深ぼり | Q&Aと同順
p28-31 企画室日記
p32 おいでよ企画室
別紙 投書欄

特集 沖縄戦と基地の今

U. S. MARINE COMPO FACIL.
米國海兵隊施設

UNAUTHORIZED ENTRY PROHIBITED
AND PUNISHABLE BY JAPANESE LAW.

無断で立入ることはできません。
違反者は日本の法律によって罰せられる。

総代合宿で
沖縄に
行きました

@佐喜眞美術館

沖縄戦の図と館長の佐喜眞さんによる解説

佐喜眞美術館の屋上から普天間基地を臨む。
振り返ると、高く住宅が。

そもそも

学生企画室って？



学生企画室は関大生協の学生部です。私たちは「当たり前を見直す」ことを、社会問題発見のきっかけにしています。そして、どうすれば私たちが生活しやすい社会になるのか、そのために私たちにできることは何かを考え、貧困問題や公害問題など、私たちを取り巻く様々な問題について学んでいます。

2019年は、基地問題と戦争をテーマとして、事前学習を行った上で沖縄を訪れました。まず自分の認識を疑ってかかるところからスタートし、なぜ沖縄に基地が集中しているのか、それが沖縄の人々にどう影響しているのか、私たちの暮らしとどう関係があるのか、などを学び、考えました。そして、その問題の現状とそこに至った背景を知った上で現場に行き、自分なりの考えを持つことを目指しています。

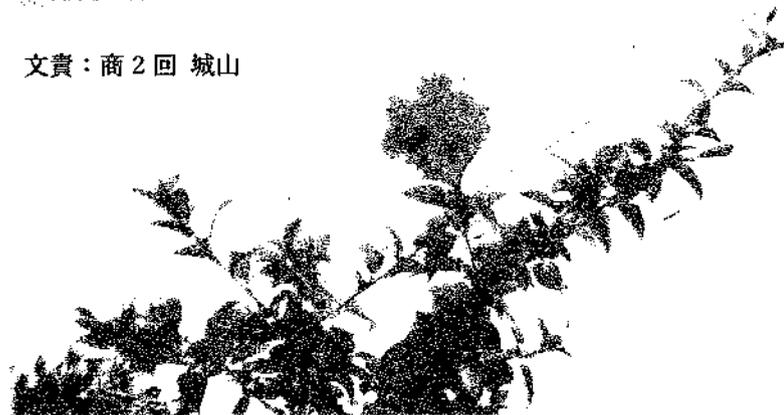
私たちが沖縄に行った理由

沖縄と聞くと、観光地としてのイメージが強く思い浮かびます。しかし、沖縄には日本の米軍基地の約7割があり、第二次世界大戦で唯一、日本で地上戦が行われた場所でもあるというイメージを持っている人はそこまで多くないのではないでしょうか。私も修学旅行の平和学習で沖縄を訪れましたが、平和学習としての側面は薄く、レジャー観光のおまけ程度だったように感じます。

また、沖縄では新基地建設に対する県民投票が行われましたが、投票総数の7割以上が埋め立て反対の意思を示しました。にもかかわらず、国は埋め立てを強行し、新基地建設を推し進めています。日本は民主主義の国ではなかったのでしょうか。

このような現状が何故起こっているのかを詳しく知るため、そして、書籍や映像を見るだけでなく、資料や当事者の話から実物大の沖縄を肌で感じるために、私たちは沖縄に行きました。

文責：商2回 城山



沖縄戦・基地問題の基礎知識

▶沖縄戦について

15年戦争末期の1945年4月、沖縄県中部の読谷村に米軍が上陸した。「鉄の暴風」と呼ばれるほどの激しい砲撃は地形を変え、多くの住民が犠牲になった。米軍は日本軍本部がある首里に向かって進行し、日本軍は5月末には南部に撤退した。6月23日には牛島満司令官が自決し、組織的な戦闘は終了したが、一部地域ではその後も戦闘状態が続いた。

▶基地の形成

沖縄戦を生き延びた住民は米軍によって収容所に入れられた。その間に米軍は焦土と化した土地を強制的に接収し、基地を建設した。さらに冷戦期には、沖縄を軍事拠点化するために「銃剣とブルドーザー」によって土地を奪い、基地を建設した。



▶普天間返還と辺野古新基地問題

①普天間基地とは

沖縄県宜野湾市の4分の1を占める米海兵隊の軍事基地。住宅密集地に存在し、「世界一危険な基地」と呼ばれる。

▶2019年沖縄県民投票

この県民投票は、米軍基地を名護市辺野古に建設する際に行われる海の埋立てに対し、県民の意思を示すために行われた。結果は「反対」の得票が40万票を上回り、投票総数の7割を超えた。沖縄の民意は基地建設反対を示しているにもかかわらず、現在も工事は続けられ、民意は踏みにじられ続けている。

②普天間基地返還

1995年の米兵が小学生女子を暴行・強姦した悪質な事件がきっかけで、県全体の基地反対運動が起こった。そのため、日米両政府で沖縄の駐留軍全体の見直しが行われ、1996年の最終報告により、普天間基地の全面返還が合意された。しかし、代替施設が利用可能になった後の返還で、2002年には辺野古沿岸域が移設先に決定。また、返還時期は示されたものの、「2022年またはその後」とされ、返還の見通しは立っていない。

③辺野古移設問題(新基地建設問題)

政府は移設であると主張する。しかし、普天間基地とは異なる機能をもつ施設が加わることから、基地の統合・強化の色が強くみられる。また、辺野古・大浦湾周辺の海域は、ジュゴンやサンゴをはじめとする絶滅危惧種を含む、5800種以上の生物が確認された。そのうちの多くは新種の可能性がある。さらに、県内の米軍基地には計88カ所のヘリパッドがあり、返還で普天間基地周辺の騒音や危険性がなくなっても、ヘリパッド周辺ではこれまで以上に訓練が展開される可能性がある。

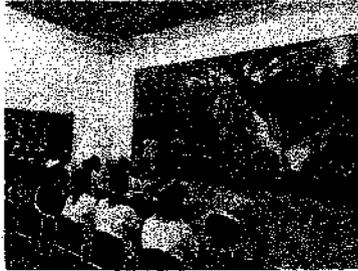
参考文献

沖縄県公式ホームページ「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book」(参照 2019-6-30)

<https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kichitai/tyosa/qanda.html>

新崎盛暉(2005)『沖縄現代史』岩波書店

沖縄タイムスプラス(2019)「沖縄県民投票「反対」が40万票超え 全体の7割超え デニー知事の得票を上回る」(参照 2019-7-6) <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/388938>



佐喜真美術館

普天間基地に隣接して建てられた私設の美術館。設立にあたって、館長が軍へ土地返還を申し出て、返還を勝ち得た土地に建てられた。基地にめり込むように設立されているため、館の周りはフェンスで囲まれている。丸木夫妻の作品「沖縄戦の図」などが展示され、屋上からは普天間基地を一望できる。館長の解説を聞きながら展示物を鑑賞した。



チビチリガマとシムクガマ

読谷村にある自然洞窟で、戦時中は住民たちが避難した。前者では避難した住民たち140人が身内同士で殺しあう悲惨な地獄絵図と化し、うち84人が死亡した。後者では開戦に伴いアメリカから帰国した比嘉氏の先導のもと全避難者が米軍に投降し、1千人弱の命が助かった。読谷村観光協会のガイドさんからお話を伺った。

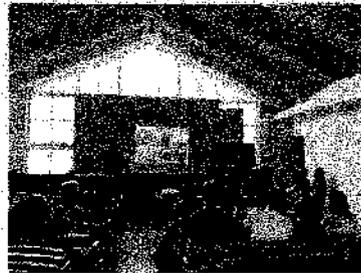
沖縄国際大学

2004年に在日米軍ヘリコプターの墜落・炎上事故が起こった大学。ここで同学法学部の井端正幸教授から、墜落事故の詳細や、日本国内における米軍基地と米軍関係者の扱いについて書かれた日米地位協定に関する講義をうけた。



平和祈念公園

沖縄戦での歴史的教訓を正しく次世代へ、世界中の人々へ発信するために設立された平和記念資料館に隣接する公園。沖縄戦で亡くなった国内外の犠牲者の名を刻んだ平和の塔や、各都道府県が設置した平和の塔がある。ガイドの比嘉さんから公園や修学旅行での平和教育にまつわるお話を伺った。



普天間バプテスト教会付緑ヶ丘保育園

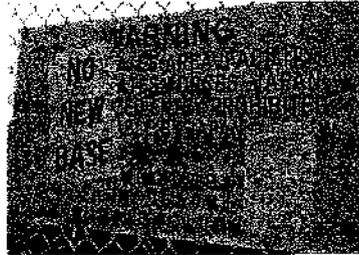
普天間基地から300mの距離に位置する。2017年に保育園の屋根に213gのプラスチックボールが落下した。米軍は未だこれがヘリから落ちたとは認めていない。その後、園長と保護者達は署名活動を行い、最終的には12万筆を集め、国や沖縄国防局に嘆願書を提出した。園長である神谷さんと事故当時の園児の保護者の2人からお話を伺った。



ひめゆり平和祈念資料館

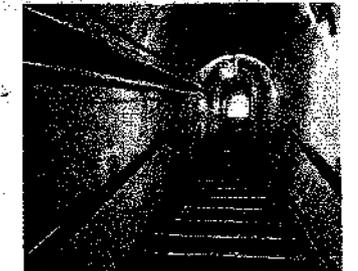
戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語り継ぐために開館した。救護要員として沖縄陸軍病院に動員された沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の元生徒の証言を文字媒体だけでなく映像としても残している。

辺野古キャンプシュワブゲート前
キャンプシュワブは、名護市と国頭郡にまたがる米軍海兵隊の基地である。その沖合には辺野古新基地が建設されようとしており、近年の沖縄基地問題の最前線である。新基地反対の座り込み運動はこのゲート前で行われるが、私たちが訪れた際は台風接近の影響で座り込みは行われていなかった。しかし、基地反対運動に参加する金城さんにその場で様々なお話を伺うことができた。



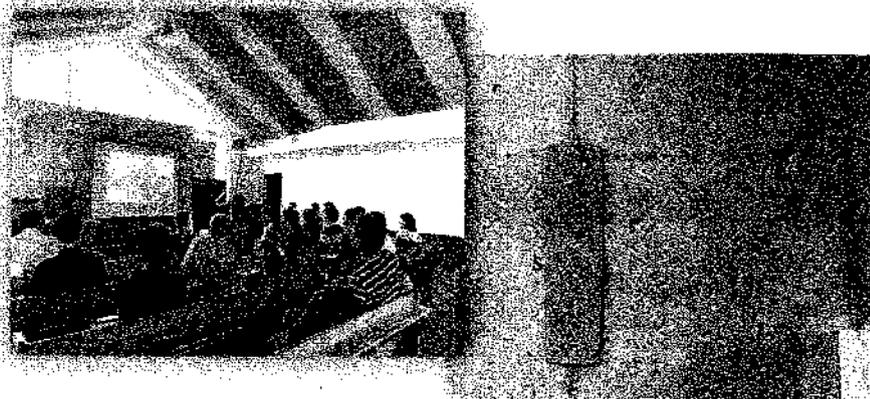
旧海軍司令部壕

1944年に日本海軍設営隊(山根部隊)によって掘られた司令部壕。自決した跡や軍人が立ったまま寝た場所などが展示されている。沖縄県民の必死の献身を褒め、県民への格別の恩赦を日本軍本部へ願った「沖縄県民スク戦ヘリ」が打撃された場所でもある。



Q. 身の安全を守るために声を上げている人々が、
バッシングにさらされているってホント？

**A. 普天間バプテスト教会付属保育園
は数多くのバッシングにさらされて
います。**



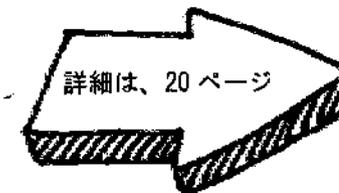
園の先生と園児の保護者は、米
軍機が園の上空を飛ばないように、
政府に訴えかけています。

「子どもをダシに基地反対しやがって」「そこ
に住んでいるのが悪い」

これらは、保育園に電話やネットで、数多く寄
せられるバッシング。子どもの命に関わるから声
をあげているだけなのに、なぜ中傷されなければ
ならないのでしょうか。

園長先生によると、中傷はほとんど「本土」の
人によるもの。「本土」では、沖縄の基地について
よく知らない人が数多くいますよね。でもそれっ
てとても恐いことかも。

文責：社2回 尾池



Q. 戦争の話を聞いて、私たちに何ができるの？

A. 事実を知り、声を聴き、
まずはどんな未来に生きたいのか
イメージを。



読谷村の人々が避難した自然洞窟のひとつ、チビチリ
ガマでは集団自決で多くの方が亡くなりました。

—私が生きて申し訳ない。

—なんであの人も連れて帰ってこなかったんだ。

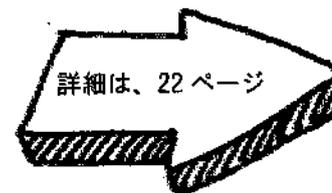
残った人たちは葛藤の中を生きたと聞きました。

チビチリガマは、遺族にとってお墓のような
存在ですが、そんなことを知らず、沖縄で平和
教育を受けたはずの少年たちが肝試しのため
に入りました。県外から、沖縄はどんな教育を
してきたんだと批判があったそうです。

私達も平和教育を受けてきた一人です。二
度と同じことを繰り返さない。これからをつく
り、後世に語り継ぐのは私達です。



文責：社2回 水野



Q. 戦争って遠いものなの？

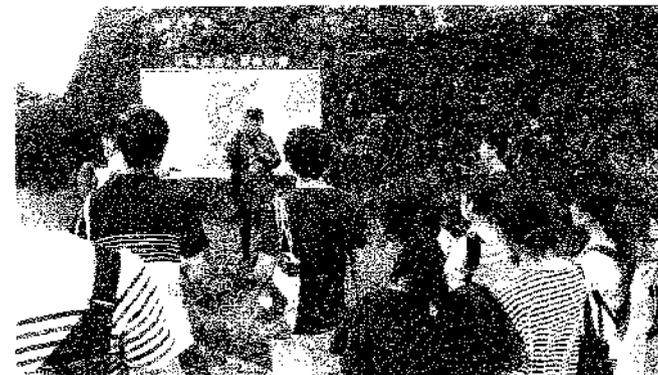
A. 思ったより近くに 戦争の危険が潜んでるかも・・・

教育をテーマにして考えてみましょう。

沖縄戦の集団自決について、日本軍の強制があったという教科書の記述を改定するように国が指導しました。日本軍が沖縄の住民を殺したという事実が、国によって隠されようとしたのです。

これは2007年に起こった出来事です。近年、戦争の真実が国の都合で改変される傾向があります。改変され続けた結果、戦争の真実が見えなくなり、最終的に教育によって日本に再び戦争体制が作られるかもしれません。

文責：社2回 丸山



詳細は、24 ページ

Q. 沖縄の基地問題は正直他人事に感じます。

**A. 本土の私たちは、
本土にあった米軍基地を
沖縄に押しつけ、放置してきました。**



敗戦直後、本土には多くの米軍基地
が作られました。

しかし、米軍関連の事件が多発し、**全国で基地
排斥運動**が起こりました。その結果、当時国外と
なっていた**沖縄に基地が移転・集中**し、沖縄は 74
年間、多くの基地に苦しみ続けています。

現在も、辺野古の基地建設に多くの県民が反対
していますが、その民意は反映されていません。
日本に占める沖縄県民の人口割合は、約 1%です。
残り約 99%の、私たち本土の人が声をあげない限
り、現状を変えることはできないのです。

文責：法 3 回 那須

詳細は、26 ページ

参考文献

沖縄県公式ホームページ「平成 27 年国勢調査速報 沖縄県の人口と世帯数

〈要計表による市町村別人口・世帯数〉(参照 2019-10-30)

〈<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/pc/H27sokuhou.pdf>〉

本 映画紹介

映画

現在、米軍新基地建設が進められている、沖縄県名護市辺野古。辺野古の海と暮らしを守るために、行動する人々を取り上げたドキュメンタリー映画です。

基地建設によって住民の生活はどのように左右されるのか。暮らしを守るための行動が切り取られ、「テロ同然だ」と非難されてしまう背景には一体なにがあるのか。一度、辺野古の人々の目線に立って、基地問題を考えてみませんか？

(監督：三上智恵 上映時間 129分)

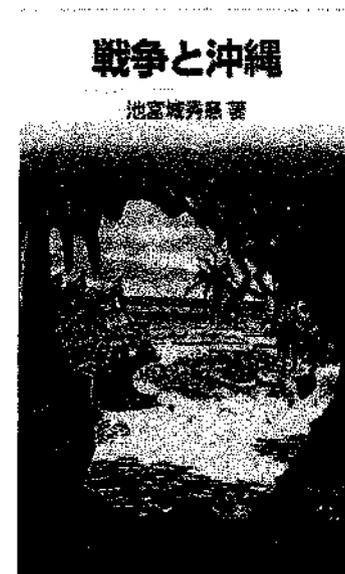


本

現在の沖縄を知るために、
歴史は必要不可欠！

沖縄戦中、現地では何が起こっていたのか、日本軍は沖縄の住民を守ったのか、住民はどのように追い込まれていったのか。そして「戦後」、住民の暮らしはどうなったのか、いかにして基地が作られていったのか。

沖縄戦から「戦後」へ、沖縄がいかに日本とアメリカによって振り回されてきたかがコンパクトにまとまった一冊です。沖縄の歴史入門書として是非！



池宮城秀意著
岩波ジュニア新書 1980年

これもおすすめ！



岸政彦『はじめての沖縄』
2018 新曜社



監督：三上智恵
上映時間：91分
2013年

身近な基地の危険性

私たちは沖縄で、ヘリの部品が落下した緑ヶ丘保育園の園長先生と、当時の保護者の方にお話を伺いました。

緑ヶ丘保育園は普天間基地から約300mしか離れていません。そのため、保育園の真上を軍用機が何度も低空飛行します。その騒音は、民間の航空機とは比べものにならないほどで、エンジンのゴーッという音の中に、金属が擦れる耳障りな音が響きます。保護者の方いわく「慣れないと生きていけない」らしく、それが日によっては、5分に1回のペースで真上を飛んでいきます。

落下物はかろうじて園児の上には落ちなかったものの、厚手のトタンの屋根が凹むほどでした。もし園児に当たっていたら、と考えるだけで、保護者の方は血の気が引いたと思います。

普天間基地は「世界一危険な基地」と呼ばれます。通常の飛行場ではクリアゾーンといって、安全確保のために、滑走路の延長上に建物を建ててはいけない地域があります。しかし普天間基地にはそれがなく、周囲に住居が立ち並ぶことが、上述のように呼ばれる所以です。

抗議を始めた保護者の方々には、引っ越せばいいじゃないか、という意見が本土から相次いで送られたそうです。しかし、保護者の方は「沖縄のどこなら安全なんですか？」と仰っていました。

そもそも、沖縄に米軍基地が集中していること、軍用機が飛行ルートを恒常的に違反していること、墜落の危険性が高いことなどによって、沖縄は「ふつうのくらし」が守られない状況にあります。空から得体の知れないものが落ちてくるかもしれないと考えること自体が、それをよく表しています。そして「ふつうのくらし」ができる私たちが、彼らにその犠牲を強いているのです。

だから、沖縄の人々に対処療法を求めるのは、大変なお門違いです。私たちがこの問題にもっと関心を持つことによってしか、解決は見えてこないでしょう。沖縄の人を取り巻く危険性とは？基地と戦争の関係とは？解決とは何か？私は、もっと多くのことを知り、より多くの人と考えていきたいです。

文責：文1回 長田

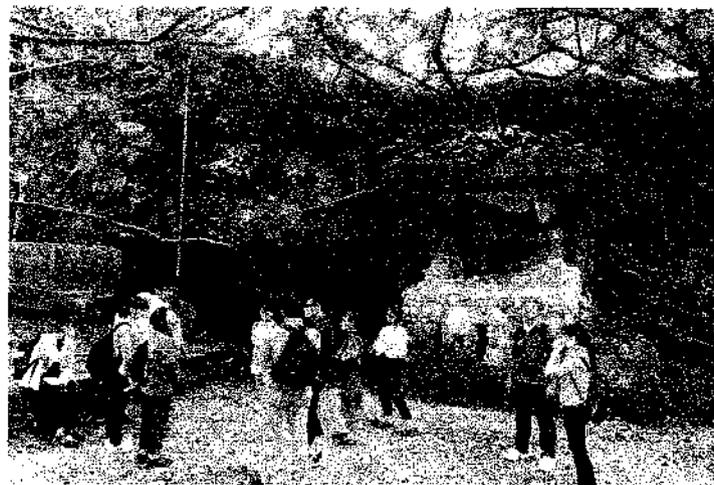


参考文献 http://www.city.ginowan.okinawa.jp/DAT/LIB/WEB/1/06_07.pdf

沖縄戦から平和を考える

私がここで述べようと思うのは、沖縄で学んだ「戦争」の断片の一部と、それについての私の感想です。この文章を読んで、なにかを感じてもらえると幸いです。

沖縄戦において、兵士の治療や援護のために作られたひめゆり学徒隊という部隊があります。私はかねてよりひめゆり学徒隊について聞きかじっていましたが、ひめゆり祈念資料館を訪れた際、予想を超える話の数々に言葉を失いました。少女たちは切り落とした手足の重さを知りました。目の前で友だちが爆殺されました。膨らんだ死体に気を付けて荒地を歩きました。この出来事は、私には全く想像もできなかったものばかりでした。しかし過去にあった現実であり、我々か、我々の子どもが経験しうることは否定できません。それを避けようとするならば、「戦争」がいかなるものであったのかを知って、語り継いでいかなければならないと強く思います。



沖縄戦中、人々が戦火から逃れるために逃げ込んだガマという自然洞窟があります。私が訪れたチビチリガマでは、逃げ込んだ大半の方が亡くなりました。犠牲となった人々のほとんどが集団自決の被害者であったことに、大きな衝撃を受けました。加えて、死者の過半数が子供です。親が子を殺し、殺してもらうために列をなすその光景は、筆舌に尽くせぬ地獄だったと聞きました。紆余曲折あり、今日では多くの千羽鶴や祈りが捧げられる場所となったチビチリガマでは、しかし、三人の少年によって荒らされる事件が近年起こりました。平和学習は生徒たちにとって一体どれほど意味があるものなのだろうか？私はこの話を聞いてそう疑問を覚えずにはられませんでした。

平和への姿勢を維持し、広げるためにはどうすべきなのか？私は誰かに任せるのではなく、私たち一人ひとりが学び、広めなければならないと考えます。まずは知ろうとする意志を。そして現状に対する危機感を。平和が当たり前と感じる今だからこそ、考えなければならないと思います。このままで大丈夫か？と問われたならば、「断じてNO!」と沖縄で学んだ今の私は答えるでしょう。

沖縄戦の死者はもう出てないでしょ？

沖縄には、未だに沖縄戦の不発弾がたくさん残っています。そのため不発弾撤去の工事も毎日のように行われています。事故がないはずもなく、死者もです。

また、米軍機の事故も絶えません。1959年の宮森小学校米軍機墜落事故では犠牲者が17人。その後も、2007年に沖縄国際大学で米軍機が墜落しました。近年では、2017年に緑ヶ丘保育園にヘリの部品が、普天間第二小に米軍機の窓枠が落下する、という事故が立て続けに起こっています。そもそも、敗戦の流れで米軍が沖縄を占領し、現在は駐留し続けています。その米軍による事故で死者が出ているのだから、戦争による死者といえます。



戦前の教育から考える

戦前の教科書は戦争の色が次第に強くなっていきました。ひめゆり平和祈念資料館の展示に、算数の教科書には武器を数えさせる問題、国語の教科書には軍隊をたたえる内容の文章がありました。戦後、そのような内容は改められました。

しかし、国が教科書に記述される戦争の内容を改変してきたという事実があります。それが、2007年に起こった教科書検定問題です。国が、集団自決について「崇高な犠牲的精神のもと行った」という位置づけをしました。(屋嘉比2009)日本兵が住民に自決を強制した事実を、住民が自ら進んで自決したというように、集団自決を美化しようとしたのです。すでに国が戦争の歴史に関して手を加えています。しかも、教育に一番身近な教科書から。もし、これからも国の都合で戦争の捉え方を改変していけば、かつての戦争の真実が見えなくなり、誰も戦争を止められなくなるでしょう。最悪の場合、戦争が正当化されるという危険が潜んでいます。

私たちから皆さんに考えてほしいことは2つ。「戦争は過去のものなのか。」「戦争は二度と起こらないのか。」皆さんは、戦争がどこか遠い過去のものであるように感じているかもしれませんが。しかし先述のとおり、今も戦争の後遺症は残っています。また、教育によって日本に再び戦争体制が作られるかもしれません。果たして今は平和と言えるのでしょうか？

文責：社2回 丸山、岡橋

参考文献

- 『教科書検定—沖縄戦「集団自決」問題から考える』2008 石山久男 岩波書店
『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす』2009 屋嘉比取 世織書房

基地問題と私たち

ここでは、沖縄の基地問題と私たち本土に暮らす人々の関係性について、もう少し深掘りしていきたいと思います。

私が沖縄を訪れて印象的だったのは、辺野古の新基地建設反対運動が行われている場に出向いた時、反対運動に携わっている方に話を伺いました。その際に、「あなたたちは加害者でもあるんだよ」という直接的な言葉を聞きました。それはまさに、私たちの意識からすっかり抜け落ちている指摘だと思います。なぜ私たちは“加害者”と言われたのでしょうか。

沖縄には、戦後本土にあった基地が排斥運動で追い出され、沖縄に集中したという歴史があります。昔は本土にもっとたくさんの基地があったのだけれど、今は数少ない。その裏には、沖縄に押し付けられた負担があります。



さらに、沖縄の世論は基地反対の声が優勢であり、それは、県知事選や住民投票の結果にも表れています。

では、なぜ状況は改善されず、辺野古の新基地建設は続けられているのでしょうか。その理由は、日本全体の1%である沖縄の主張が政府に汲み取られないことにあります。それは、オスプレイの配備撤回と普天間飛行場の県外移設を求めた“NO OSPRAY 東京集会”に、沖縄県内全41市町村首長をはじめとする様々な自治体が参加・訴えを行ったにもかかわらず、一日の狂いもなくオスプレイ配備が実行された、という事例からも明らかです。つまり、沖縄だけではだめなのです。本土に住む私たちが変わらぬ限り、沖縄の民意は無視されていくのです。

ところで、今の私たちはどうでしょう。沖縄に基地を追いやったという事実があり、また、様々な事件や被害が起きていながら、関係ないと聞く耳を持たず無視をしている。“無関心なマジョリティー”がいかに罪であるか。このことに気づいた時、“私たちが加害者である”ことを否定することからは、逃れることができないのだと思いました。

しかし、辺野古の方は私たちに強い敵意を表すために“加害者”という発言をしたわけではありませんでした。また、この一面的な立場でのみ考えることも、それはそれで問題を生みかねません。ただ、沖縄の人々と共に沖縄の問題を自分に引き付け、考えていくとき、“加害者でもある”という自分たちの立場を理解しておくことは大切だと思いました。そして、この立場は、私たちに縛るものでは決してない。むしろ、このような立場だからこそやらなくてはならないこと、やれることがあるのではないのでしょうか。

文責：外1回 前田

企画室日記

～総代合宿 in 沖縄編～

ハーフタイムスをここまで読んでくれてありがとうございます！沖縄にまつわる知識や考えを少しでも深めることに役立てば幸いです。さて、この冊子のテーマである沖縄合宿では、様々な人々を訪ねたことに加え、参加者自身の感想・考えを大切に、積極的な意見交換も行いました。このコーナーでは、合宿での感想の一部をざっくりばらんにメモにまとめることで、合宿の内容を日ごとに振り返ってみようと思います。題して、企画室日記であります！分かりにくい内容等もあるかと思いますが、合宿の様子や私たちが学び取ったことを、少しでも感じていただければと思います。

2019.09.04. Wed.

行き先：佐喜真美術館

○戦時中の人々に定着した、鬼畜米英が残忍な行為をするというイメージ。しかし、それらは侵略戦争の際に、日本軍がアジア諸国にやってきたことだったと、館長の話から知った。
日本という国への考え方を見直す必要、戦争の被害者というだけでなく加害者という視点も必要ではないか？（1回生 K.Y.）

○美術館の土地は、館長が米軍の偉い人に直談判して返還してもらったという。直談判前に防衛局に申請しに行ったが取り合ってもらえなかった経緯。
米国に対する日本の立場の弱さ、何を言っても無駄になるという国家の弱気な姿勢を感じた。（2回生 Y.S.）

2019.09.05. Thu

行き先：沖縄国際大学、緑ヶ丘保育園

○園児の保護者から、基地があるのが当たり前で、騒音に慣れないと生きていけないという話を聞いた。
基地の騒音被害の深刻さを今までイメージできなかったが、少しイメージできるようになった。（2回生 R.M.）

○街を歩く人々が、園の人のアピール活動を無関心そうに見ている映像を見た。運動が解決にそう簡単に結びつかないことが伝わってきた。
しかし、効果がないというのは間違い、現状を変えるため政府や問題を知らない人に訴えることは不可欠。そして、（当事者とそうでない人の）温度差や本土の無関心が、運動が解決へ結びつくことを阻害している。（2回生 M.O.）



2019.09.06.Fri

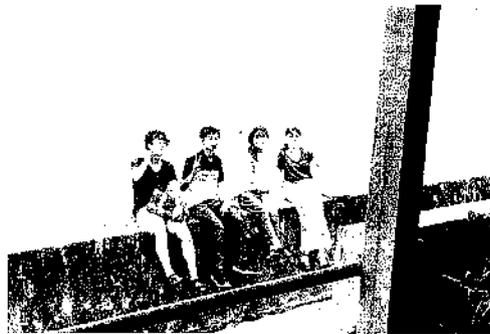
行き先：辺野古ゲート前、チビチリガマ、シムクガマ

○沖縄戦で痛手を負った日本もアジア諸国では虐殺をしている。虐殺したのは、家族がいて家庭内では優しい父親の側面も持っていた軍人である。

戦争が人を歪ませてしまうことや、日本も諸外国に酷いことをしていたという認識を持つべき。政府の慰安婦はなかったという主張を受け入れている今の日本人は、痛みを感じないように教育され、おかしさに気づけなくなるのではないだろうか。(2回生 Y.S)

○(沖縄の人が本土の人に使う)「内地」という呼び方。本土の人がのけ者/よそ者扱いされているように感じていた。

けれど自分たちは、昔本土にあった基地を沖縄に追いやったからこそその平穏や利益を間接的であれど享受している一人。内地が沖縄にいかにかひどい扱いをしてきたか、そして自分もそれに加担している一人であることを認めることができた。(3回生 Y.N.)



2019.09.07.Sat~09.08.Sun

行き先：平和記念公園、ひめゆり平和記念資料館

旧海軍司令部豪

○戦争体験を伝えるということが伝える側にとっていかに精神的負担となるかを痛感。

体験を伝える負担、伝えようと決めるまでの経緯に私たち聞く側は想像力を働かせる必要がある(2回生 M.O.)

○私がこれまでに受けた平和教育は概して「戦争はしていけない」という結論ありき。形骸化した結論ありきの平和では子供たちが思考停止し想像できなくなる。(1回生 C.N.)

○平和祈念公園にある、各都道府県の慰霊の塔を訪れた。それらに併置してある石碑には、「英霊」や「愛国心」、「聖戦」の文字が見られた。

戦後だから戦前とは違う、軍国主義の時代は終わったと、時代の区分で安心はできない。戦後という時代区分で隠された戦前の性格が戦争の美化と合わされば再び戦争が起きかねない危機感がある。(3回生 Y.N.)

社会の 「おかしい」

と思うこと
みませんか？
一緒に考えて

関大生協学生部 学生企画室

企画室では、あなたが身の回りで「おかしい」と思うことやモヤモヤしていることを共有し、みんなで考え、学ぶことができます！

さらに、実際に現地へ赴き、当事者の方や深く関わっている方にお話を聞いてさらに考えることも！活動内容は、凜風館二階の掲示物でもちょっとわかるよ！

企画室は凜風館3階にあります。
毎週月曜日と木曜日の5限後、凜風館3階会議室にて活動中！
質問などは ku-kikaku@kandai.ne.jp まで